

SHOW-HIGHシネマールム

★★★★★



2024-59

監督・原案・脚本：マルコ・ベロッキオ

原案：ジョヴァンニ・ピアンコーニ
／ニコラ・ルズアルディ／ス
テファノ・ビセス

脚本：ステファノ・ビセス／ルドヴィ
イカ・ランボルディ／ダヴィ
デ・セリーノ

出演：ファブリツィオ・ジフーニ／
マルゲリータ・ブイ／トニ・
セルヴィッロ／ファウス
ト・ルッソ・アレシ

夜の外側 イタリアを震撼させた 55 日間 (前編 エピソード I～III) Esterno notte/Exterior, Night

2022 年／イタリア映画
配給：ザジフィルムズ／170 分

2024 (令和 6) 年 8 月 10 日鑑賞

テアトル梅田

👁️👁️ みどころ

あなたは、1973 年の金大中事件を知ってる？また、1978 年のアルド・モーロ誘拐事件を知ってる？両者とも世界を揺るがした大事件だが、その結末は大違い。まずは、そのお勉強をしっかりと！

2024 年の今、イタリアでもフランスでも、ヨーロッパでは極右政党の抬頭が顕著だが、1978 年当時のイタリアは共産党の勢力が増大。そのため、戦後ずっと与党の地位をキープしてきたアルド・モーロを党首とするキリスト教民主党は、共産党との連立政権を模索したが、その賛否は？また、それをめぐる党内の権力闘争は？さらに、教皇パウロ 6 世の意向は？

2022 年 7 月 8 日の安倍晋三元首相の銃撃事件は今なお記憶に新しいが、あれはあくまで個人的犯行。それに対して、本作に見る「赤い旅団」によるアルド・モーロ誘拐事件は組織的かつ計画的犯行だから、人質解放をめぐる対応はメチャ難しい。その対応には何と 55 日間も要したが、その結末は金大中事件とは正反対の不幸なものに・・・。

『夜よ、こんにちは』(03 年) による強烈な問題提起の 19 年後に、アルド・モーロ誘拐事件の解明に再度挑戦したこの巨匠に拍手！日本では、8 月 14 日に岸田文雄総理が 9 月の自民党総裁選挙への不出馬を表明したが、そんなコップの中の嵐(?) への対応を考える上でも、本作は必見！

前編 170 分＋後編 170 分、合計 340 分の座りっぱなしはしんどいが、五味川純平の原作を小林正樹監督が仲代達矢主演で映画化した、『人間の條件』(59～61 年) の一挙上映 9 時間 31 分に比べればまだマシ！しかも、オールナイトではなく、幕間に途中 15 分休憩で観られるのだから、こりゃ必見！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■全編 340 分！マルコ・ベロッキオ監督慟哭の一大巨編■

本作は 26 歳で監督デビューしたイタリアのマルコ・ベロッキオ監督の最新作で、27 本目の監督作品だ。彼を一躍有名にしたのは、18 本目の『夜よ、こんにちは』（03 年）（『シネマ 11』168 頁）だ。同作は、1978 年 3 月に発生した「アルド・モーロ誘拐事件」を「赤い旅団」側から描いた問題提起作だが、それから 19 年後に、彼は再び「アルド・モーロ誘拐事件」をテーマとして自ら監督、脚本、制作して、本作を作り上げたからすごい。しかも、その上映時間は 340 分というから恐れ入る。

私は小林正樹監督、仲代達矢主演の『人間の條件 全 6 部』（1959～61 年）（9 時間 31 分）（『シネマ 8』313 頁）を計 3 回鑑賞したが、そのうち 2 回はオールナイト上映だった。それに対して、本作は前編 170 分と後編 170 分に分けられているだけだ。本作を鑑賞するためには、それだけの時間、座席に座り続けることが要求されるが、アルド・モーロ誘拐事件が起きて『夜よ、こんにちは』の完成まで 25 年、そして『夜よ、こんにちは』から本作までが 19 年間、総計 44 年間の歳月をかけてイタリアの巨匠マルコ・ベロッキオ監督が追求し続けてきたアルド・モーロ誘拐事件が、340 分バージョンで上映されると聞けば、いくらしんどくても、こりゃ必見！

■アルド・モーロ誘拐事件 vs 金大中事件。なぜ 55 日？■

イタリアのキリスト教民主党政の党首アルド・モーロが誘拐された 1978 年の「アルド・モーロ誘拐事件」は日本ではあまり知られていないのに対し、1973 年に韓国の金大中氏が拉致監禁された「金大中事件」は日本でもよく知られている。「金大中事件」とは、韓国の政治家でのちに大統領となる金大中氏が、韓国中央情報部（KCIA）により日本の東京都千代田区のホテルグランドパレス 2212 号室から拉致されて、船で連れ去られ、ソウルで軟禁状態に置かれた 5 日後にソウル市内の自宅前で発見された事件のことだ。映画では、阪本順治監督の『KT』（02 年）（『シネマ 2』211 頁）がそれを描いていた。金大中氏は救出されたばかりでなく、その後大統領まで上り詰めたが、アルド・モーロ氏は？

ちなみに、チャールトン・ヘストン主演の『北京の 55 日』（63 年）は団塊世代にはよく知られた作品。同作は、中国の清朝末期に義和団の乱が起こり、首都北京に義和団が押し寄せる中、包囲された 11 か国の居留民が籠城して 55 日間を戦った物語を描いたものだった。本作のサブタイトルが『イタリアを震撼させた 55 日間』とされているのは、1978 年 3 月 16 日に発生したアルド・モーロ誘拐事件が、5 月 9 日に遺体が発見されるまでの 55 日間を描いたためだ。ちなみに、パンフレットに掲載されている『アルド・モーロ誘拐事件 55 日間のドキュメント』は、次のとおりだ。

アルド・モーロ誘拐事件 55日間のドキュメント

- 3月16日 アルド・モーロ元首相、率て自宅から国会議事堂に向かう道中のファーン通りで襲撃され、誘拐。運転手、護衛の計5人が射殺。事件後、極左武装グループ「赤い旅団」が政府に名乗りを上げ、トリノ市で行われている阿連幹部の裁判中止を要求。
- 3月18日 「赤い旅団」から、モーロの写真と「おれわれがモーロを捕えている」との第一号声明が届く。
- 3月21日 政府、容疑者捜査と治安強化のための緊急政令を決定。
- 3月25日 「赤い旅団」、「モーロは人民裁判で裁かれている。」という第二号声明を発表。
- 3月29日 「赤い旅団」の第三号声明とともに、フランチェスコ・コッシーガ内務大臣などに向てモーロ自身が書いた最初の手紙が届く。なお、アルド・モーロは投獄中に、家族、政府関係者に送った88通の手紙を書いたとされる。実際に届いたのはその一部であった。
- 3月30日 キリスト教民主党幹部会が「赤い旅団」との取引はいいない行わないことが決定。
- 4月7日 「赤い旅団」ジェノバで工業企業家連盟会長を襲撃。会長は、手足を銃撃され重傷。
- 4月8日 モーロから家族宛てに手紙が届く。
- 4月10日 「赤い旅団」、第五号声明と、モーロ自身の「供述書」を発表。
- 4月11日 「赤い旅団」、トリノの警守を射殺。
- 4月15日 「赤い旅団」、「モーロは有罪であり、死刑を宣告する」との第六号声明を発表。
- 4月18日 「モーロを自殺によって処刑した」との真偽不明の第七号声明が出る。これに基づき、遺体が捨てられたとされるダッカラ湖の捜索が行われたが、偽情報と判明。
- 4月20日 「赤い旅団」、第七号声明で、獄中の共産主義者の48時間内釈放を要求。
- 4月22日 コーマ法王、ワルトハイム国連事務総長が「赤い旅団」にモーロの解放を呼び掛け。
- 4月24日 「赤い旅団」が「アラオラ獄中の13人を解放せよ」と第八号声明で初めて条件を提示。政府は交渉拒否を再確認。
- 4月29日 モーロから上下両院議長、大統領ら政界有力者に9通の手紙、いずれもキリスト教民主党を非難し、交渉開始と助命を訴えた内容。
- 5月3日 社会党のグラタン書記長が政府に「交渉開始」を要求。キリスト教民主党はこれを拒否。
- 5月5日 「赤い旅団」が新聞各社に「モーロに対する判決を執行し、戦いを終結する」と処刑予告の第九号声明を送付。その直後にモーロ氏から家族宛てに「別の手紙」が届けられる。
- 5月9日 コーマのミケランジェロ・コネターニ通りに駐車されていた赤いランロー・4のトランク内で、モーロの遺体が発見された。

参考文献 「モロ事件ドキュメント」 読売新聞 1978年5月10日 第14頁
「ローマ特電 4月24日の恐怖 赤い旅団」サンデー毎日 1978年5月1日
「Real culture WEB DOC Aldo more」 <https://www.realculture.it/web/doc/aldo-more/>

■主人公は？登場人物は？赤い旅団とは？■

日本では来たる 2024 年 9 月に、自民党の総裁選挙と立憲民主党の代表選挙が同時期に行われるが、その戦いにおける主役やそれを支えるさまざまな登場人物たちの人間模様は興味深い。それと同じように（?）、『夜の外側』と題された本作はドキュメンタリーではなく、あくまでドラマであることが強調されているが、登場人物は実在の人物ばかりだから、彼らのキャラクターをしっかりと押さえておかなければ、本作は全く理解できないことになってしまう。

このように本作を鑑賞するについての必要最小限の情報として、チラシにもパンフレットにも記載されている「人物相関図」を転載しておく。



また、チラシに掲載されているアルド・モーロと赤い旅団についての解説も転載しておく。

1971 10月 1日 **アルド・モーロ | ALDO MORO**

1916年9月、イタリア東南部のレッツェ生まれ。弁護士を経て、46年に政界入り。キリスト教民主党員で、生涯で計5回首相を務めた。70年代、中道政の衰退と共産党の躍進がはじかり始めるや、共産党、社民党などの協力を取り付け、左翼の“与党化”をはかる。共産党との連立政権は、冷戦下で西側と共産主義が手を取ることを意味していた。これを当時のイタリア共産党書記長ベルリングエルは“歴史的妥協”と称した。モーロは78年末に行われる大統領選挙では最有力候補といわれていたほど、イタリア政界きっての最重要人物であった。

1971 10月 1日 **赤い旅団 | LE BRIGATE ROSSE. BR**

イタリアの極左過激派の中でも、最も過激な武装グループ。1970年、学生だったレナート・クルチオが、共産主義のための革命的武装闘争を発展させるため、仲間らとともに結成。若年層の高い失業率や、単国一党体制への不満等を背景に勢力拡大を狙うが、支持が得られず、次第に過激な武力闘争に傾倒していく。モーロ解放の条件として、クルチオら獄中の十数名を釈放せよ、と要求していた。

BRIGATE ROSSE

■全 340 分の構成は、6 つのエピソードから■

五味川純平の原作『人間の条件』は全 6 部作だったが、映画は、『第 1 部 純愛篇／第 2 部 激怒篇』（59 年）で 1 本、『第 3 部 望郷篇／第 4 部 戦雲篇』（59 年）で 1 本、『第 5 部 死の脱出篇／第 6 部 曠野の彷徨篇』（61 年）で 1 本、という風に 3 作品で構成され、1959 年から 1961 年にかけて 3 作品が公開された。ちなみに、この全 3 作を一挙に上映したことが、日本の映画館での“オールナイト興行”の走りと言われている。他方、山本薩夫監督は、『人間の条件』と同じ作家・五味川純平の長編小説『戦争と人間』の完全映画化＝シリーズ化に挑戦したが、資金難のため（?）、『第 1 部 運命の序曲』（70 年）、『第 2 部 愛と悲しみの山河』（71 年）に続く『第 3 部 完結編』（73 年）（『シネマ 2』14 頁）で、（無理やり）シリーズを完結させてしまったのは実に残念だ。

他方、シリーズ第 4 作をとりあえずの完結編とした『キングダム』シリーズは、第 1 次シリーズ化（?）を成功裏のうちに終了させたから、今後狙うのは『スターウォーズ』や『ロッキー』、『ランボー』のような、更なるシリーズ化だ。それに対して、同じ人気漫画で映像化不可能と言われていた、かわぐちかいじ原作の『沈黙の艦隊』（23 年）（『シネマ 55』158 頁）もやっと映画化され、そのシリーズ化が企画されているはずだが、その前途は？

このような壮大な物語を 1 本 2～3 時間の映画で映画化していくにはシリーズ化が不可欠だが、アルド・モロコ誘拐事件は必ずしもシリーズ化する必要はないから、1 本の映画で完結させることは十分可能だ。マルコ・ベロッキオ監督は、『夜よ、こんにちば』で一旦それを完成させたわけだが、その 19 年後、再び 340 分という長尺で同じアルド・モロコ誘拐事件の映像化に挑戦したのは一体なぜ？日本では、前編 170 分と後編 170 分の 2 本に分けて公開されているし、1 日の上映で前編と後編を上映するから、連続して見ることが可能だ。そして、全 340 分の前編（170 分）は、「エピソードⅠ 発端 モーロ誘拐」、「エピソードⅡ 混乱 苦悩するコッシーガ」、「エピソードⅢ 交渉 パウロ 6 世の手紙」、後編（170 分）は、「Ⅳ 対立 赤い旅団」、「Ⅴ 家族 エレオノーラの憔悴」、「Ⅵ 告解 55 日目」という 6 つのエピソードで構成されているが、これはちょっとした区切りに過ぎないから、あまり意識する必要はないだろう。

■前編Ⅰ～Ⅲのテーマとそのあらすじは？■

チラシに掲載されている、前編（170 分）を構成するエピソードⅠ～Ⅲのテーマとそのあらすじを転載すると、次の通りだ。



I

発端

モーロ誘拐

1978年、イタリア。キリスト教民主党の党首アルド・モーロは、共産党との連立政権を実現させるべく奔走していた。党内外から激しい反発を受けるも、ようやく話がまとまり、3月16日、内閣信任投票のためモーロは議事堂に向かう。しかし道中で、極左武装グループ「赤い旅団」に襲撃され、護衛は殺害、自身はそのまま誘拐されてしまうのだった。



II

混乱

苦悩するコッシーガ

モーロ襲撃・誘拐が判明してすぐに、議会では緊急会議が開かれる。指揮を執るのは、モーロを父と慕う内務大臣フランチェスコ・コッシーガ。ローマに巨大な包囲網が張りられ、徹底捜索が敢行。彼の号令で大規模な通話傍受センターも開設。そして誘拐から14日目、モーロから手紙が届き、その中にはコッシーガ宛てのものもあった。



III

交渉

パウロ6世の手紙

バチカンの教皇パウロ6世も、旧知の友であるモーロを救出すべく策を練っていた。信者に向かって、モーロ救出のために祈ろうと呼びかけ、身代金として200億リラを用意する。だが政府内では、身代金の是非が一致せず、交渉相手もどうも怪しい…。教皇は直接、赤い旅団のメンバーに語りかけようとする。

■1978年当時のイタリアの政治情勢は？ポイントは？■

日本では、2014年9月3日の第2次安倍晋三改造内閣の発足以降、しばらく自民党の一強多弱体制が続いた。また、私の学生運動時代は社共共闘が進み、革新自治体の躍進が進んだ上、日本共産党の勢力も増大が続いていた。私の弁護士登録は1974年4月、独立したのは1979年7月だが、1978年当時のイタリアではイタリア共産党の躍進が続いていたから、戦後長らく政権を握っていたキリスト教民主党の党首アルド・モーロらはイタリア共産党との連立政権もやむなしと判断し、党内調整が続いていた。アルド・モーロを父親と慕う内務大臣のコッシーガ（ファウスト・ルッソ・アレジ）は、アルド・モーロへの絶対的忠誠心を示していたが、アンドレオッティ首相（ファブリツィオ・コントリ）は？ザッカニーニ書記長（ジージョ・アルベルティ）は？さらにレオーネ大統領は？

2023年10月7日に突如発生した、ハマスによるイスラエルへのロケット弾攻撃とパレスチナ捕虜釈放のための約250名もの人質の連行を受けて、イスラエルはガザ地区への侵攻を開始したが、その直後、イスラエルのネタニヤフ首相はイスラエルの連立政権を維持していくために、強行右派も連立政権に組み込んでいる。それと同じように、一党で単独過半数の議席を得られない以上、多少は意見の異なる他の政党との連立政権は不可欠だが、キリスト教民主党とイタリア共産党は水と油の関係ではないの？それと全く同じ議論が、日本で近い将来実施されるはずの衆議院議員総選挙での野党統一候補の選出や、立憲民主党と日本共産党との連立政権構想を巡って展開されているが、しかしその実現可能性が極めて薄いことは誰の目にも明らかだ。

ところが、1978年当時のイタリアでは、そしてアルド・モーロを党首としたキリスト教民主党では、「歴史的妥協」の大義のためにはそれもあり！」だったらしい。もちろん、イタリア共産党のベルリングエル書記長（ロレンツォ・ジョイェッリ）はそんな連立政権構想に大ハシャギ（？）だが、アルド・モーロと旧知の友であるバチカンの教皇パウロ6世（トニ・セルヴィッロ）の意見は？

本作「第I章 発端」では、そんな1978年当時のイタリアの政治情勢と、キリスト教民主党の党首アルド・モーロの、何とも微妙な立場がマルコ・ベロッキオ監督の視点で描かれる。その結果、遂に1978年3月16日午前9時02分、アルド・モーロ誘拐事件が勃発！その怒涛の展開とマルコ・ベロッキオ監督がスリリングに描く人間模様は、あなた自身の目でしっかりと！

2024（令和6）年8月16日記